研友会のことども

佐藤　信太郎

私が徳永さんと初にお話ししたのは、翻訳者集団の昭和５５年忘年会の時でした。私は、徳永さんの反対の席に座っていた。徳永さんの席の近くに枝さん（お名前は後に分かった）もおられて、宴もたけなわになり、各自まわりの人と雑談にふけっているとき、枝さんが、私が東北大学金属材料研究所（略称金研）に勤務していたことを知り、徳永さんに私を紹介された。

徳永さんは、昭和４～９年、枝さんは５～７年共に軽合金室、私は２０～２３年金研のことなどを話した後に、徳永さんに大阪工業英語研究会に入会のお誘いがあり、私もそれを前から希望していたので、入会をお願いして、昭和５６年１月の水上先生の講義から現在にいたっている。

当時徳永さんは、金研に勤務した人々の同窓会である研友会の近畿支部長をしておられて、研友会総会を１１月某日京都の某所で開催するよう仙台の本部から依頼されていた。徳永さんは、枝さんと私を連れて、暑い８月某日、会場に指定された某所を訪れて、会当日の詳細の打ち合わせをされた。金研に最も関係の深い金属学会秋季大会が京都で開催され、その大会の一日の夕刻に開催するように、本部でスケジュールを組まれていた。本部からの指定事項を、徳永さんは私たちにも話してくださった。そのなかには、記念写真をとること、洋食にすること、出席の某氏に講演を依頼すること、本部からの補助金の額など、詳細を極めていた。さて研友会総会の当日は、生憎、かなり強い雨降りの日であった。私は、会費を受け取り、領収書を渡す係をしたが、出席者には、錚々たる学者の方が多かった。その時の記念写真を、私は保存している。散会後、徳永さんからお誘いがあって、３人で喫茶店に入った。飲み物が運ばれて、徳永さんから、「私は７７歳になった。支部長を十年近く勤めたので、代わりの人を探している。私が熟知する会員がいないので佐藤さんにお願いしたい。来年４月頃、支部会員に、新しい支部長の推薦状を出すから、それまでに考えておいてください」と突然お話があった。私は、偉いことになった、と思って帰途、気が重くなった。

それから、翌年４月まで、あれこれ思案にくれて、ついに、徳永さんの依頼を引き受けた。徳永さんは、支部長交代の辞とともに、私を推薦する由来を書いて、６０余名の支部会員に送られた。徳永さんの、ご意見に反対もなく、本部の承認を得て、私は、名誉ある第２代研友会近畿支部長を勤めることになった。

私が、研友会近畿支部長になってから、毎年の支部総会開催について、徳永さんは、激励の言葉を与えて下さるとともに、自分から積極的に参加してくださって、腰部の負傷にも拘らず、石山寺や大和郡山近くの慈光院まで、遠路ご出席いただいた。ことに、慈光院の会合では、予定の出席者の辞退があいつぎ、たった６人の会合であった

のに、徳永さんは、不自由な足腰をおして出席くださった。徳永さんから、英語研究会のことで「会は出席者が一人でも続けることが大切」と教えていただいたので、研友会支部総会も、その趣旨で運営してきた。徳永さんの、積極的なご支援で、研友会近畿支部総会も、ここ５年間、一定の出席を得られ、ご推薦いただいた支部長も、１１年になり、５月２９日の総会でお役目御免にしていただくことになった。徳永さん、どうぞお許しください。